

麦作技術情報 No. 4

令和8年5月18日
鳥取県産米改良協会

- 令和8年産麦の収穫時期は、過去5年間の平均収穫適期目安より3日早い予想です。
- 向こう1か月の天候は、降水量及び日照時間は平年並の予想ですが、気温は高い見込です。
- 播種が早いほ場から順次収穫を行うなど、適期収穫を励行しましょう。

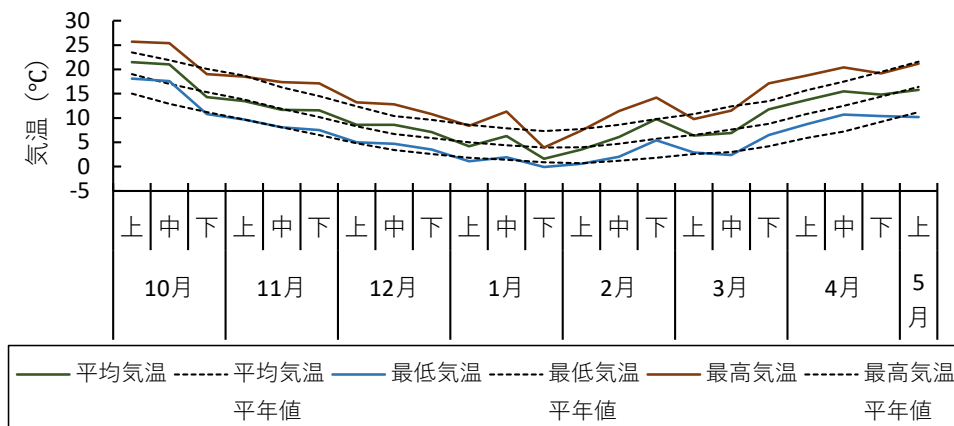
○農作業安全を徹底しましょう

・ほ場や農業機械の安全点検、熱中症の防止を図りましょう。【参考資料3】

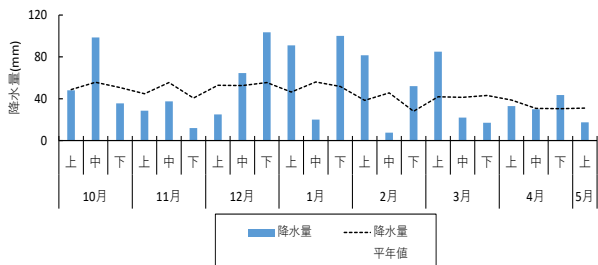
○適期収穫と適切な乾燥調製

- ・令和7年秋播の麦は、11月中旬までの気温は平年並だったが、11月下旬以降は高めで推移した。1月下旬に一時的に気温が低くなり、2月上旬に降雪があったが、気温が上昇し、二条大麦の出穂する3月下旬以降は高く推移した。12月中旬から3月上旬にかけて降水量は多めであった。3月下旬までの生育期間の日照時間はほぼ平年並で推移した。11月上中旬播の生育進展はやや早く、出穂後の気温は高く、出穂期、成熟期はやや早い傾向である。
- ・適期収穫できるかどうかで品質が大きく左右され、高品質麦生産の鍵を握るので、収穫適期の見極めと、適切な乾燥調製を徹底することが重要である。

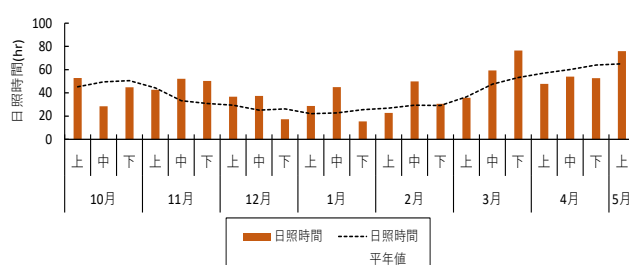
I 天気概況



【令和7年—8年における気温経過（倉吉市）】



【令和7年—8年における降水量（倉吉市）】









【令和7年—8年における日照時間（倉吉市）】

1 現在までの気象状況

麦出穂後となる4月の気象は、平年に比べて降水量はやや多く（平年比107%）、平均気温は平年より高かった（平年比+2.1℃）。日照時間は少なく（平年比85%）経過した。

2 気象予報(広島地方気象台 5月14日発表)

中国地方(山口県を除く) 1か月予報(05/16~06/15)		
2026年05月14日14時30分 広島地方気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 05/16~06/15	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 05/16~05/22	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 05/23~05/29	気温	2週目は、高い確率80%です。
3~4週目 05/30~06/12	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	中国地方	向こう1か月 05/16~06/15	
		1週目 05/16~05/22	
		2週目 05/23~05/29	
		3~4週目 05/30~06/12	
降水量	中国地方	向こう1か月 05/16~06/15	
日照時間	中国地方	向こう1か月 05/16~06/15	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

II 生育概況

1 二条大麦

○農業試験場

・農業試験場 11月7日播種「はるさやか」の出穂期は3月28日で、穂揃期は3月30日であり、播種が過去4年平均(11月11日)よりやや早かったことと初期生育が旺盛で2月上旬の積雪後に気温が上昇し、出穂前後も高温だったことで、過去4年平均と比較すると出穂期は4日早く、穂揃い期が6日早く迎え、成熟期は4日早い5月11日であった。穂揃期の穂数は過去4年平均と比較して多かったが、成熟期の穂数は少なかった。

○現地ほ場

・中部地区「はるさやか」の出穂期は、11月上旬播種で3月24~29日頃となっており、湿害を回避したほ場では、穂数が平年並の印象である。網斑病の発生がわずかに見られるが、穂孕み~出穂時の極端な低温による部分不稔等の受精障害は少ない。出穂以降の高温多湿による赤かび病の発生が懸念されたことから、赤かび病の被害を予防するために、適期防除を徹底し、追加防除も呼びかけ実施された。

2 小麦

・西部地区の小麦は11月中旬播種の「はる風ふわり」で、出穂期は4月10日前後となっており、例年と比較してやや早い生育進展となった。一部で4月上旬に黄斑病の発生が確認されたが、赤かび病との同時防除により拡大を抑えた。生育は概ね順調である。

・赤かび病対策として、現時点で基幹防除適期(①開花始~開花期、②1回目散布の7~10日後)を経過した状況で未防除のほ場は、直ちに防除を実施する。

III 技術対策

本県産麦の最重要課題は高品質化である。そのための最終作業である収穫・調製作業については、降雨等の気象情報に注意し、収穫作業が円滑に進むよう、事前にコンバインの整備や種子混入時の選別が難しい雑草(カラスノエンドウ及びヤエムグラ等)の抜取など準備を行っておく。

1 収穫

11月上旬播種の大麦収穫適期目安

令和8年5月13日現在

品種	産年	出穂期	出穂期～ 成熟期日数	出穂期～ 成熟期 積算気温	成熟期目安	収穫適期目安
		月日	日	℃	月日	月日
二条大麦 (はるさやか)	過去5年平均	3月29日	46	711.7	5月14日	5月24日～5月26日
	令和8年産	3月28日	44		5月11日	5月21日～5月23日

注1) 令和8年産の成熟期目安は登熟期間の過去平均と出穂期～成熟期積算気温の過去平均から推定した。

注2) 積算気温は出穂期を起算日とし、5/13以降の平均気温は1カ月予報に基づいて過去5年平均並で算定した。

注3) 収穫適期目安は二条大麦(はるさやか)成熟期+10～12日

(1)刈取適期の判定

・収穫適期は、子実が熟色となり、茎葉の青味がとれ、大部分(80%以上)の穂首が90度以上曲がった頃で、適期幅は3～5日と短いとされている。中部地区の実績から収穫適期は成熟期から10～12日後とする。

【参考資料1参照】

・ビール麦は収穫時に損傷を受けると発芽勢が落ちて品質上問題となるので、子実が硬くなる穀粒水分25%以下の状態で刈取りを行い、コンバイン扱胴回転数は機種所定の麦収穫適用範囲(水稻より下げる)に設定する。

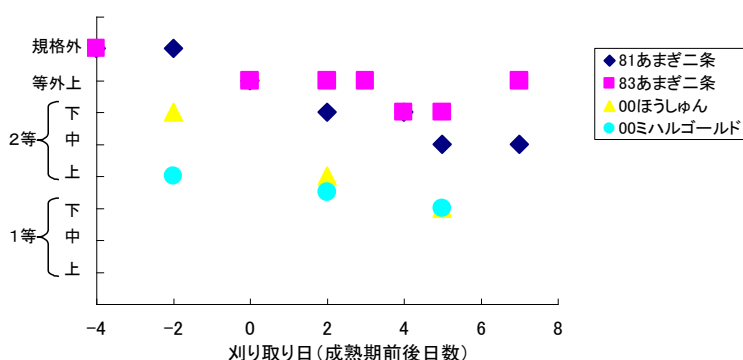


図 ビール麦刈り取り日と検査等級(福岡農総試)

(2)品質低下の防止



















- ・刈取適期より早く収穫すると、子実の充実度不足や色浅未熟等により下位等級に格付けされやすくなる。
- ・凸腹粒は成熟期以降の降雨には影響しない。
- ・ほ場による成熟程度のばらつきがある場合、成熟期の異なるほ場を同じ日に刈り取らない。
- ・倒伏の著しいほ場や熟ムラのあるほ場は、通常のは場と分けて収穫し、調製施設でも区分して荷受けすることで、品質が不良な子実がなるべく混ざらないように注意する。
- ・好天が予想される場合は、熟れの遅い部分に合わせて収穫する。ただし全体に遅穂が多いような生育の場合は、強勢穂を基準にして遅穂が登熟する前に収穫する。

2 収穫後、乾燥調製まで

- ・高水分のまま放置された麦は、保管中に発芽障害を起こしやすいので、刈取後2時間以内には乾燥施設に張込み、乾燥開始までは常温で通風する(ビール麦)。また、刈取当日に必ず乾燥作業を開始する。
- ・収穫後高水分の子実で、かび毒が増加する可能性があるため、可能な限り速やかに乾燥する。

ビール麦「はるさやか」の刈取適期表

令和6年産 倉吉農業改良普及所調査データ

1)		立毛状況	穂の状況	粒の状況	水分 (%)	備考
出穂後40日 成熟期 (5/10)					28.6	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首は緑がほぼ抜ける ・穂首の曲がり0度 ・チリメンジワがよっていない粒が多い
成熟期 3日後 (5/13)					25.9	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首は緑が抜ける ・穂首の曲がり0～30度 ・チリメンジワが少ない
発芽勢低下 (刈取厳禁)	成熟期 6日後 (5/16)				24.3 降雨あり	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首の曲がり20～45度 ・チリメンジワが確認できる ・爪で押すと爪跡が残る粒が多い
	成熟期 8日後 (5/18)				19.4	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首の曲がり30～65度 ・穂首の曲がり具合にばらつきがある ・チリメンジワが増え、粒の大半が堅い ・ほ場全体を見ると芒がキラキラ見える
現地の刈取時期	成熟期 10日後 (5/20)				18.3	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首の曲がり60～90度 ・穂首の傾きが概ね揃う ・チリメンジワは多く、粒は全てが堅い ・ほ場全体を見ると芒が目立ちにくくなる
	成熟期 12日後 (5/22)				16.6	<ul style="list-style-type: none"> ・穂首の曲がり100度以上 ・チリメンジワは多く、粒は全てが堅い ・芒が概ね見えなくなり、穂首のアーチの頂点が見える ・ほ場全体が茶色っぽく見える ・やや粒の光沢がなくなる

※調査ほ場 鳥取県倉吉市下古川

※播種日 2023年11月7日、出穂期 2024年3月30日

※水分は5回計測後の平均値(株式会社ケット科学研究所 米麦水分計ライスタm)

【参考資料2】

令和8年度病害虫発生予察注意報第2号

令和8年4月22日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

県内の麦類において、赤かび病の発生に好適な気象条件が続くことが見込まれている。本病が多発する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

病害虫名：赤かび病

- 1 対象作物 麦類（大麦、小麦）
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い

4 注意報発令の根拠

- (1) 赤かび病は、曇雨天及び高温により発病が助長される。4月以降、本病の感染に好適な気象条件で推移しており、孢子飛散好適日が複数回連続して発生している。
- (2) 中国地方1か月予報（4月16日発表）によると、降水量は平年並か多く、気温は高く、平年と比べ晴れの日が少ないと見込まれており、赤かび病の多発が予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 赤かび病の発病によって収量や品質が低下するばかりでなく、かび毒の基準値を超過するほ場では出荷できなくなる可能性もあるので、すべての麦種で2回防除を徹底する。
 - ア 二条大麦
 - (ア) 現在、現地ほ場の大半は1回目（穂ぞろい期10日後頃）の防除を終えている時期ではあるが、まだ実施していない場合は速やかに薬剤を散布する。
 - (イ) 発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除を1回目防除の7～10日後頃に行う。
 - イ 小麦
 - (ア) 現在、現地ほ場の大半が開花始めから開花期を迎えていることから、この時期の防除を確実に実施する。すでに開花期を過ぎているほ場では速やかに薬剤防除を行う。
 - (イ) 発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除を1回目防除の7～10日後に頃に行う。
 - ウ 六条大麦
 - (ア) 小麦に準ずる。
- (2) それぞれの防除時期の使用農薬の例は表1を参考とする。麦類赤かび病の主要防除薬剤は表2を参考とする。なお、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、必ず展着剤を加用する。

表1 ムギ類の赤かび病の防除時期及び使用農薬（例）

	麦種	防除時期	使用農薬（例）
1回目 （発病抑制）	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	小麦	開花を始めた時期～開花期	
2回目 （発病抑制） （かび毒低減）	二条大麦	1回目散布の7～10日後	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	小麦	1回目散布の7～10日後	

- (3) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する（表2）。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので、注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。

- (4) DMI 剤 (FRACコード: 3、シルバキュアフロアブル、ワークアップ粉剤DL等) は耐性菌が発生しやすいので、2回以上防除を行う場合は連続使用を避ける。
- (5) 刈遅れや倒伏により麦が降雨にあたると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

表2 麦類の赤かび病の主要防除薬剤 (令和8年4月22日現在の農業登録内容)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分 (FRACコード)
シルバキュア フロアブル	2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内	テブコナゾール (3)
		小麦: 収穫7日前まで	2回以内	
ワークアップ フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メトコナゾール (3)
ワークアップ 粉剤DL	3kg/10a			
トップジンM 水和剤	1,000 ~1,500倍	大麦: 収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	チオファネート メチル (1)
		小麦: 収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
トップジンM ゾル	1,500倍	収穫14日前まで	大麦: 3回以内 (出穂期以降は1回以内)	
	1,000 ~1,500倍		小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
トップジンM 粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦: 3回以内 (出穂期以降は1回以内)	
			小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内)	
ミラピス フロアブル	1,500 ~2,000倍	大麦: 収穫14日前まで	2回以内	ピジフルメトフ エン (7)
		小麦: 収穫7日前まで		

<お問い合わせ先>

鳥取県病害虫防除所 (鳥取県農業試験場内、電話: 0857-53-1345)

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/> です。



【参考資料3】

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。
急激に気温が上昇する時期の熱中症に注意しましょう。

「あと少し」の無理が命取り！

熱中症は

です

- ✓ 天気予報・体調を確認
- ✓ こまめな水分補給と休憩
- ✓ 涼しい服装・対策グッズの活用
- ✓ 単独作業を避ける・単独作業の場合は連絡をとり合う

農作業中の熱中症救急搬送件数

年度	搬送件数(件・県内)
R1	52
R2	72
R3	42
R4	65
R5	60
R6	68
R7	45

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局 JA鳥取県中央会JA総合支援部農業くらし対策室 電話:0857-21-2633
鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課 電話:0857-26-7327

農作業中の熱中症の予防管理

○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が3日以上予想される場合には熱中症警戒期間が発表され、最高気温35℃以上が3日以上予想される場合には熱中症特別警戒期間が発表されます。
- 天気予報や県の「あんしんトリピーメール」等で情報を入手しましょう。

○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、20分ごとにコップ1~2杯の水分と適宜塩分も補給しましょう。

○ 涼しい服装で、体温を調節しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- 空冷ファン付き着衣や冷却グッズを有効活用し、作業中の体温を調節しましょう。



○ 作業は2人以上で行いましょう

- 急に動けなくなることがあるため、1人での作業は避けましょう。
- 1人で作業する場合は、必ず、家族等に作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。

○ 天気予報の暑さ指数(WBGT)を見ましょう

- 今日、明日の作業強度が高い場合は、軽い作業へ変更しましょう。
- 変更が難しい場合は、作業する時間帯を朝夕の時間帯にずらしましょう
- 休憩や給水の回数を増やしましょう。

暑さ指数に応じた作業の目安を参考にしましょう

作業強度／WBGT基準値	農作業の例
作業は原則中止／3.1以上	・冷房の効いた室内での軽作業のみとする
軽作業（厳重警戒必要）／3.0	・楽な座位、立位、軽い手作業（書く、簿記など） ・手及び腕の作業（点検、組み立てや軽い材料の区分け） ・腕と足の作業（普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作）
中程度の作業（警戒を怠らない）／2.8 	・トラクターや重機の操作、草むしり、果物や野菜の収穫 ・軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする
重労働（積極的に水分補給）／2.5 	・シャベルを使って少量の土の移動、刈払い機で草刈り ・重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする
ほぼ安全／2.1	・激しくシャベルを使ったり掘ったりする、鍬で畑を耕す